

パーパスの実践により社会や顧客に貢献する「Resonac Pride 製品・サービス」

「Resonac Pride 製品・サービス」の動画はこちら



Resonac Pride 製品・サービスとは、当事業による“パーパス”と“バリュー”の実践を可視化するための取り組みです。パーパス「化学の力で社会を変える」実現に向けては、バリューチェーンの川上から川下まで幅広い領域で提供している当社の製品・サービスが、お客さまや社会にどのような価値を、どのくらい提供することができたかを可視化していくことが重要だと考えています。マテリアリティ「イノベーションと事業を通じた共創力&競争力の向上と社会価値の創造」達成のためのKPIと位置づけ、取り組みを進めています。

[P84 / 非財務KPIの実績と目標](#)

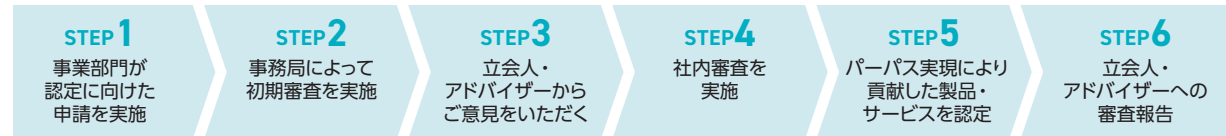
認定するための主な確認項目	認定のポイント
パーパス／バリューの実践 顧客や社会に提供した価値はなにか(可能な限り定量化) どんなバリューを発揮したか	妥当性
リスクの評価 製品環境アセスメント、レピュテーションなどさまざまな観点から評価した際にどんなリスクがあるか	第三者から見たリスクの観点
売上計画 売上計画やシェア	将来性／インパクト
SDGsとの関連性 17のゴール・169のターゲットにどう貢献するのか、SDGsの本質につながっているか	世界共通のゴールとの関連性(将来性含む)

審査のポイント

認定にあたっては、パーパスに基づき社会を変えることでお客さまや社会に提供した価値や、当社が大切にしている4つのバリューの発揮の妥当性、製品環境アセスメント・レピュテーションなどのリスク評価、売り上げ計画やシェアなどの将来性・インパクト、世界共通のゴール(SDGs)との関連性などの観点で第三者の視点を入れ評価していきます。

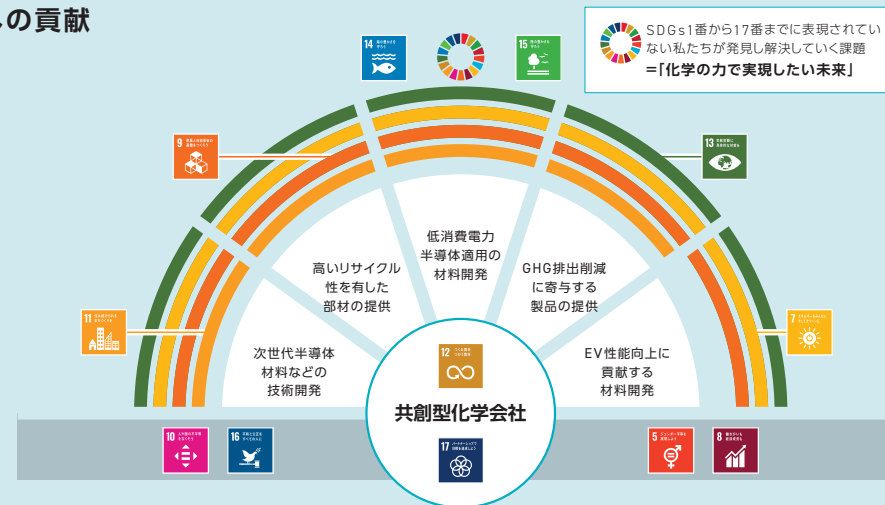
審査のステップ

2023年までは社内で製品・サービスの認定を実施していましたが、2024年からは行政、取引先、投資家や有識者、お客さま、次世代メンバーなど第三者にも入っていただき、客観性・透明性を高めています。



事業を通じたSDGs達成への貢献

循環型社会を目指す共創型化学会社として、SDGsの12番と17番への貢献を当社の企業活動の中心とし、事業・製品を通じた取り組みのゴール、土台に事業基盤を通じて自らが取り組むゴールを右記のように位置づけています。既に取り組んでいる領域はもちろんのこと、その先の「化学の力で実現したい未来」への貢献を目指します。



Resonac Pride 製品・サービス認定第1号 川崎プラスチックケミカルリサイクル事業(KPR)

Resonac Pride 製品・サービスの第1号として、川崎プラスチックケミカルリサイクル事業(KPR)を認定しました。

KPRIは、2003年に稼働を開始したガス化ケミカルリサイクルプラントで、使用済みプラスチックを高温でガス化し、分子レベルまで分解して水素とCO₂を取り出しています。



認定のポイント(抜粋)

- 製造過程でも化石燃料や化石燃料由来のエネルギーを使わないため、従来のアンモニア製造方法と比較するとGHG排出量を約80%削減
- 年間約6万トンの使用済みプラスチックをリサイクル(日本のケミカルリサイクルの約20%に相当)

ステークホルダーからの声

社内審査前のアンケートや認定後に開催した審査報告会において、幅広いステークホルダーの皆さまから、地域・社会への貢献や改善点、将来に向けた当社への期待・激励のご意見をいただきました。これらのご意見を踏まえてケミカルリサイクルをさらに社会のために発展させていきます。

お取引先: 日揮ホールディングス株式会社 ケミカルリサイクルでこれだけの商業運転を達成しているプラントは現時点では世界にKPRのみ。先見性、化学の力、技術力が活かされた良い事例

行政: 川崎市ご担当者 川崎市が推進しているカーボンニュートラルコンビナート構想の柱は水素、炭素循環、エネルギーの地域最適化。KPRはその柱の全てに関わっている

お客さま: 東急ホテルズ&リゾーツ株式会社 レゾナックから供給されるKPRの水素による発電はホテル運営の核であるため、今後も海外含めて社会への認知を共に広めていきたい

地域住民: 町内会 地域住民や子どもたちへの、工場見学やリサイクルに関する説明を通じて、リサイクル意識の向上に貢献している。今後も環境問題などの解決に向けた新しい技術開発を進めるとともに、プラントの安全な運転をお願いしたい



審査報告会の様子

お客さま: 株式会社JERA これまで長い間、当社へ安定的にアンモニアを供給いただいているのは、KPRプラントが安定運転できているから。レゾナックの従業員の尽力に感謝

投資ファンド: リソナアセットマネジメント株式会社 松原さま 本質的な社会の要求に応えるためには、まだまだ規模が足りない。ケミカルリサイクル普及拡大に向けた世界観を持てば、自社と社会のサステナビリティの両立の好事例となるはず

次世代: 学生 20年もの事業継続が素晴らしい。プラスチックがケミカルリサイクルにつながることをより示せば、自治体の分別も促進され回収率アップにもつながると思う

有識者: 早稲田大学 伊坪先生 今後さらに審査の基準を明確かつ分かりやすくすること、そして20年後の世界に対して各地域の実情に合わせたKPRの将来像を打ち出すとより良い

有識者: 法政大学 長谷川先生 投資家の理解を得るためにも、共創しているステークホルダーと共に情報発信することが重要。Resonac PrideがソーシャルPride、ジャパンPrideになることを目指して取り組んでほしい

有識者: 東京大学 中谷先生 今後、繊維廃棄物のように処理困難なものの再資源化にも期待している。また、炭素を原料として有効利用するなど今後の発展も期待している